

教えて、はがきちゃん!

どうして支援が必要なの?どんな支援をしているの?

~2019年度活動報告~

私のご案内します。



2019年度は、約10万枚の「書き損じはがき」を集め、アフガニスタン、カンボジア、ネパール、ミャンマーの4か国に、合計400万円を送りました。こうした支援が、現地でのどのように役立てられているのか、各支援先での活動について報告します。



アフガニスタン

アフガニスタンは、ソ連軍の侵攻やその後の内戦、タリバン政権による抑圧、アメリカ軍による空爆など、悲しい歴史を経験してきた国なんだ。学校などの教育システムが破壊されて、今でも経済的に厳しい状況が続いているよ。国全体の識字率は改善していて、政府も60%を目標にがんばっているけれど、まだまだ私たち「世界寺子屋運動」の支援が必要なんだ。女性の識字率は29.8%と、とっても低いから、女性の支援に力を入れているよ。それと、アフガニスタンには国内避難民*もいて、2か所の避難キャンプでも寺子屋を実施しているよ。
*内戦などで家を追われ、自国内での避難生活を余儀なくされている人々

アフガニスタン17軒目の「バグラミ寺子屋」は完成間近。国内初の二階建ての寺子屋です。この寺子屋は、地域の人びとが自ら建設、塗装、電気工事を行いました。識字クラスや職業訓練の他、政府の識字関連部署の事務所としても活用される予定です。



UNESCOが作成した新版の教科書でダリー語を学ぶ女性たち。健康や家庭、共存の必要性など多岐にわたるトピックで、ダリー語の読み書きだけでなく生活に必要な考え方やスキルなども同時に学びます。識字クラスの教員は全員女性のため、保守的な家庭の男性も、妻や女兒を快くクラスへ送り出してくれています。

裁縫クラスで洋服やバッグ作りを学ぶ女性たち。2019年度は14クラスで306人が学びました。「寺子屋」の識字クラスで学んだ文字や計算を使って復習をしながら、技術を身につけていきます。



ネパール

ネパールは、北は中国に、東西と南はインドに囲まれた内陸国。北側は高い高いヒマラヤ山脈で、インフラ設備や物の運搬、経済発展に地域格差があるんだよ。内戦とその後の政治的混乱、2015年4月25日と5月12日に起きた大地震も、経済発展がなかなか進まない原因になっているんだ。ネパールの識字率は政府が全国で展開した3か月の「基礎識字クラス」などによって、約68%まで上がったけれど、女性の識字率は今でも60%以下だし、農村部ではさらに低いんだよ。



識字クラスで学ぶ女性たち。基礎的なネパール語や算数を学習するほか、携帯電話の使い方や栄養価の高い料理の作り方など、生活に必要なスキルも習得できるプログラムになっています。



幼稚園クラスの「おやつ」の時間の1コマ。幼稚園クラスでは基本的なネパール語や英単語の学習の他、歌やダンスも楽しめます。保護者には「子どもが手洗いをするようになった」「自分で本を読むようになった」など好評です。

国内20軒目となる「ギタナガール寺子屋」が完成。日本からの支援者を含め約150名が式典で開所を祝いました。この「寺子屋」では識字教育の他、女性の小口貯蓄・融資グループの活動の場となるなど、地域にも活用されています。



カンボジア

カンボジアでは、1970年代から20年以上、内戦状態だったんだ。特に1975年から3年8か月続いたポル・ポト政権下では、教育が禁止され、多くの知識人も虐殺されて、教育のための施設・教材・人材が失われてしまったの。近年、政情は比較的安定してきたけれど、経済成長の一方で貧富の格差は深刻。農村地域では、貧困や学校が遠いなどの理由で、小学校を中途退学してしまう子どもたちが今も多くいるんだよ。



復学支援クラスを卒業し、小学校課程修了証を手にした子どもたち。2019年度、シェムリアップ州内17軒の「寺子屋」では1,300人以上が識字を始めとする基礎教育、職業訓練などを受けました。



「世界寺子屋運動」の支援を卒業した「寺子屋」で、自立運営に必要な費用捻出のため、ホテリアオイのつるでバッグを作る人たち。「世界寺子屋運動」30周年を記念し、デビュー20周年を迎えた歌手の倉木麻衣さんとタイアップしたデザインのバッグも作り、日本でも販売しました。



シェムリアップ州の農村部に建てられた18軒目となる「ポペル寺子屋」。識字をはじめとする基礎教育や、職業訓練が受けられる新たな学びの場としても期待されています。

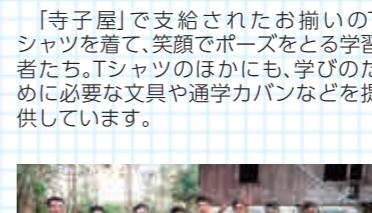


ミャンマー

民主化後のミャンマーでは、政府が「基礎教育の拡充」を重点課題のひとつと位置付けて、改善に取り組んでいるよ。でも、内戦の影響を受けた地方や、軍政時代にいちじるしく停滞した経済により生まれた多くの貧困層にまで、十分な教育の機会を渡らせるのは、まだまだ長い道のりといえるよ。義務教育を修了せずに働く子どもや若者も多く、中学校就学率は56%に留まっているんだよ。



夜間クラスの様子。貧困などで小学校を中途退学する青少年の多くは、日中、家計を支えるために働き、夜、学びます。「世界寺子屋運動」では、それぞれの地域の実情とニーズに合わせ、プログラムの実施やクラスを開講しています。



「寺子屋」で支給されたお揃いのTシャツを着て、笑顔でポーズをとる学習者たち。Tシャツのほかに、学びのために必要な文具や通学カバンなどを提供しています。



保健衛生や社会問題などの基礎知識や対応方法などを、講義だけでなく話し合いをしながら学ぶ学習者たち。こうした学びの中で自信と精神的な安定を得て、生活態度が改善。地域での奉仕活動を積極的に行うなど、地域で頼られる存在へと成長しています。

“世界寺子屋運動” 名古屋実行委員会 2019年度実績

- 書き損じはがき回収枚数: 101,344枚
- 支援金と支援先:
アフガニスタン…100万円
カンボジア……150万円
ネパール………100万円
ミャンマー…… 50万円
合計400万円



“世界寺子屋運動”名古屋実行委員会は、2020年度も引き続きアフガニスタン、カンボジア、ネパール、ミャンマーの4か国での活動を支援していきます。寄付の送り先等、裏表紙の案内もぜひご覧ください。みなさまの温かいご支援をよろしくお願いいたします。